



関西



檜木 一秀氏
(長手HD社長)

「物流DXへの取り組みを推進し、輸送効率化とともに顧客のニーズを把握しながら、モーダルシフトを加速させていく」と語るのは、海陸運送業をグループで手掛ける長手ホールディングス(長手HD、本社・神戸市中央区)の檜木一秀社長。

檜木社長は神戸製鋼所副社長およびグループ企業の社長を歴任し、昨年6月に長手HDへ入社。社員からは「オフ

「CN実現へ海陸運送でモーダルシフト加速」

イスの空気が非常に明るくなっている。CO₂排出削減でカーボンニュートラル(「カーボンニュートラル」)の実現に貢献できる。環境に配慮した持続可能な輸送に誇りが持てるようになっただけでなく、多頻度小口化に対応する新たな輸送モデルの構築も模索している。

同社は2025年4月から3カ年の中期経営計画をスタートし、同時に人事考課や給与制度を改定。社員に分かるように、握りやすいデジタル技術の活用評価制度を導入した。また、内航船員の勤務体制も見直し、これまでの3カ月勤務・1カ月休暇から、2カ月勤務・1カ月休暇へと変更。事前ヒアリングを経て実施したが、船即座に検索可能にすれば、業務効率が大きく向上する」と述べる。

同社は環境対策にも注力し、ESG経営とSDGsの観点から、船舶輸送の特長を生かしたモーダルシフトを推進している。船舶のCO₂排出量はトラック輸送の約5分、1に抑えられるため、C

(斎藤 雄輝)